

## 【防災知識の普及】

### 外国人のための防災教室

八戸国際交流協会

#### 1. 目的

八戸市は、太平洋に臨む青森県の南東部に位置し、臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、その背後には工業地帯が形成されている全国屈指の水産都市、北東北随一の工業都市である。

「外国人のための防災教室」は、その八戸市にも津波被害をもたらした東日本大震災を教訓に、外国人住民にも災害に対する備えや心構えなどを知っておいてもらいたいということから、平成 25 年度から年 1 回開催している。当初は協会の単独開催であったが、平成 27 年度からは八戸広域消防本部と共催で開催している。



#### 2. 実施内容について

防災教室は、2 部構成になっていて、前半は「防災講座」として座学、後半は「防災訓練」というメニュー全体を 2 時間で行っている。

#### 【防災講座】

前半の「防災講座」では、八戸広域消防本部から出向している八戸市防災危機管理課の職員が講師となっている。災害の中でも日本で遭遇する可能性が高い地震やそれに伴う津波、火事に焦点を当て、それらが起こった際にどういう対応をすればよいかを学んでいる。



特に、八戸市は東日本大震災で津波被害を被ったこともあり、津波被害の写真や津波が発生した場合のシミュレーション映像で津波の恐ろしさを学ぶとともに、マップ上で避難所の場所を確認するなど、津波に関して詳しく説明が行われている。

火事の説明の際には、消防本部指令室の協力を得て、参加者が実際に 119 番に電話して通報する訓練も実施している。



また、八戸市では逐次災害情報をホームページに掲載しているが、さらに E メール配信サービス「外国人用ほっとスルメール」も行っており、その登録を促す周知もしている。

### 【防災訓練】

後半は「防災訓練」として、消防隊員が講師となり、屋外に出て、身の回りの物でできる怪我の応急処置、水消火器を使った初期消火訓練、起震車で大地震を再現した揺れを体験したりしている。

応急処置では、ストッキングで包帯を作ったり、レジ袋を使って骨折箇所を固定する方法を学び、その意外な方法に参加者たちは驚いていた。その後は、普段握ることのない消火器を構え、「火事だー！」と叫びながら的に向かって噴射する。メインの起震車体験では、テーブルの下に隠れる暇もなく、必死にテーブルにしがみついて揺れに耐えるなど、普段は全く経験することのない内容に少し戸惑いながらも一生懸命取り組んでいた。



### 3. 参加者について

参加されている方々は、留学生や企業実習生、ALTとして来日している中国やベトナム、アメリカの方々がほとんどである。教室では英語と中国語の通訳者を手配し、講師の説明の後に、英語通訳、中国語通訳が入るような形で進めている。なお、平日仕事の方でも参加しやすいよう、日曜の午後に開催している。



参加者のアンケート結果では、全員が実施内容について「よかった」と答えており、特に起震車体験については、参加者の多くが、そもそも自国では地震の経験がないということから、強い関心が伺えた。日本で生活する上で、やはり地震が心配であるというコメントも見られた。

### 4. 今後の課題

課題として、参加者数があまり多くないことが挙げられる。外国人も日本の住民として生活する上で、防災の知識を得ることは非常に大事なことであるが、意外に関心が低いのが現状である。そこで、来年度は“参加者を待つ”のではなく、こちらから外国人が集まる場所に直接行くことにした。まずは試験的に、当市で外国人が一番集まる場所と言っても過言ではない、当協会が主催している日本語教室とタイアップし、講座のカリキュラムの一部に防災教室を取り入れることで現在話を進めている。

防災教室を本当に意義あるものにするために、まずは多くの外国人住民に参加していただく機会を作ることが大事だと考えている。